

くすっ子



鴻巣市立屈巢小学校
学校だより
令和3年 9月10日
No. 11

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》

花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

今こそ、「スイミーたち」のように団結・連帯をするとき

校長 諏訪 けん

2学期が始まり2週間が過ぎました。児童は、毎日の健康観察をしっかりと行ったり、話をしないで給食を食べたり（黙食）、マスクから鼻が出ないように気を付けたり（正しいマスクの着用）して、「ウイルスをうつさない、ウイルスにかからない」ように気を付けています。これは、2学期始業式の私の話をしっかりと受け止めてくれているからだろうと思っています。その時の話のテーマが、**今こそ、「スイミーたち」のように団結・連帯するとき**でした。（以下、話の概要）

2020年3月からの一斉臨時休校以来、今が一番感染者の多い時、世の中も学校も一番大変な時（＝危機）、だから、今こそ、団結をして「スイミーたち」のように、危機（＝大きな黒いロケットのようなマグロ）を乗り越えよう！！。

（「スイミー」は、2年生の国語の教材文です。）



2年1組の教室のスイミーたち

「スイミーたち」のような団結は、お互いの安心感を生み出します。不安や心配を解消していくパワーになると考えます。このことは、児童同士・家族同士・ご近所同士・地域の住民同士と**範囲が大きくなればなるほど、相乗効果を生み出す**と考えます。そこを期待して、本校児童に発信しました。

新規感染者がやや減少傾向になってきましたが、私自身は、新型コロナウイルスにいつ感染してもおかしくなと思っています。ですから、**例え、学校関係者の誰かが感染したとしても、安心して自宅療養（または入院）に専念できるように、日頃の人間関係を大事にし、スイミーたちのような団結（連帯感）を新たに築いたり、より強くしたりしておきたいと考えます。**

スイミーたちようになるための、具体的な行動を考えるために、今週の初めには、「交番」でのできごとの話を各学級の担任を通じてしました。その要旨は、「人には、言われたくないことがある」「言われたくないことをみんなに広めることは、しない。（うわさ話を広めることはしない。）」**「相手の立場になってよく考え、自分だったら、いやだなと思うことは、自分のところでとめる。うわさを広めることは『おかしい』と言える人になってほしい。」**というものでした。

コロナ禍が長く続き、様々なストレスが、児童にも大人にもかかっていることも承知しています。しかし、**そのようなときこそ、「スイミーたち」のように団結・連帯するときと考えます。**

私は、屈巢小の子どもたちの優しさを信じています。思いやりの気持ちを言葉や態度で表せる子どもたちだと信じています。まだまだ先が見えないコロナ禍ではありますが、みなさんと力を合わせて乗り越えたいと、切に願っています。今回の内容について、ご家庭でも話題にいただけると、大変ありがたいです。

最後に、改めて、ノーベル医学賞受賞の山中教授が発信しているコメントを掲載いたします。

- 新型コロナウイルスとの付き合いは、長いマラソンのようだ。賢い行動を粘り強く。
- 新型コロナウイルスとは、平和的共存（いかに人間社会が受け入れていくか）です。
- 誰にでも感染の可能性がある。感染した方への偏見や差別は、無意味です。